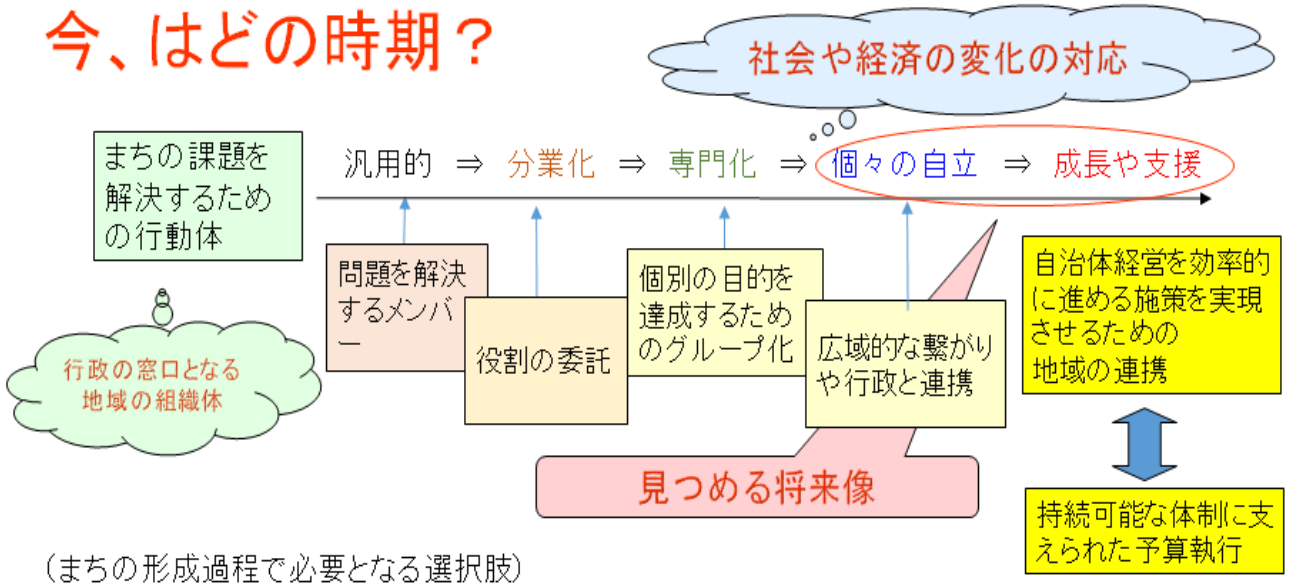
01 まちづくりの視点



（まちの形成過程で必要となる選択肢）

統合されて大きくなった都市・・・・・・・・・・・・・旧庁舎が支所となり分権による地域づくり

環境や社会情勢によりふくらんだ都市・・・・・中央集権の色彩のなかで地域の特色を生かせる地域づくり

※草津市は後者

市長とトーク2010スライドより

地域コミュニティの実情

地域のコミュニティは、交通機関の充実により通勤の区域が広がりや人口の流入が激しくなったこと、流通機構の変化により工業製品や生産品が手に入りやすくなったこと、更には情報技術の発展により生活圏が広がり、そこに住んでいなくても自治体の施策に関心を寄せる人が増加する半面、個人の地域に対する繋がりが遠のく傾向は南笠東学区においても顕著に表れています。また、高齢化の意識はややもすると、お互いさまと引き受けていた地域の役割を年齢を理由に拒絶、役員の学区事業の参画は、町内の役は引き受けたが私には負担が大きすぎると主張する人が散見されています。

- **期待されないリーダーは、無意識に、だめリーダーのシナリオにはまっている。**

  将来の担い手不足を口にする人

  よそのことを耳にして、うちも同じだと思い込みを⇒　周りに風潮する

  ことになる自分は、将来に関わらない　と　言っているようだ

  周りの人に将来の担い手はいない　と言っているようだ

これって継承されやすいね！

※　*誰かが担うことになる、今は、自分が頑張る一人だ！という気迫が感じられない*

このような雰囲気の時は、ギアチェンジが必要

02 新たな公共と呼ばれる時代の羅針盤

公共の概念

公共の概念

「公共」というのは役所のことと考えている人は多いのではないでしょうか？

公共 ・・・ パブリック Public

1. 国や自治体が税金によって行うサービスや事業
2. 個々の市民が、地域的ネットワーク等が、個々の決意や信念にもとづき不特定多数の他人に貢献すべく行う活動。。

「新らしい公共」の推進（内閣府）
官だけでなく、市民、NPO、企業などが積極的に公共的な財・サービスの提供主体となり、身近な分野において、共助の精神で活動する社会の構築

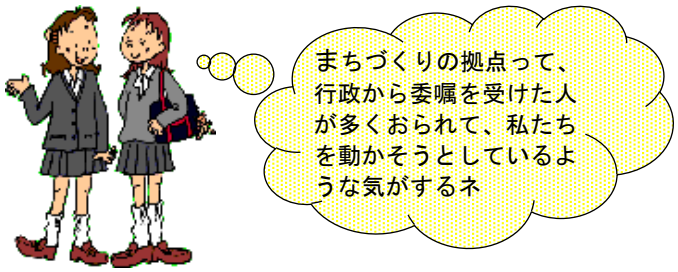
「みんなのためになること」を、官・民の区域を越えて、一緒に考えるフィールド

かつて、公共事業は行政が行うものという考えをもつ人が多かったのですが、多様なニーズは、行政が管理的に提供する立場、市民は供給される立場から、行政は市民に場を提供し、信頼し、権限を移譲するという方向に転化してきました。

南笠東学区で使っている「官・民協働」という言葉は、行政と市民が共通する方向を見出しお互いの役割を決めて責任を果たす考え方に加えて、ＮＰＯや企業等が積極的に公共的な財・サービスの提案及び提供主体となり、共助の精神で行っている活動を地域社会においても実践し協働の輪を広げて行こうとする意味合いを含んでいます。

協働に必要な意識の片隅に

学区の活動拠点としている、まちづくりセンターは、行政から委嘱されている団体や個人と趣味のグループなどが利用をしている寄り合い世帯という見方ができます。



まちづくり協議会が、市民グループの領域を超えて行政の地域窓口として、動き出す時、「委嘱者としての使命を果たすこと」とともに市民の一員として「市民たる地域住民と単位町内会の関係」すなわち、自治連合会や単位自治会を現場と思う意識を持つことが必要と思います。

03 まちづくりを進めるためのキーワード

人が集うと、さまざまな声が聞こえます。
その声に耳を傾けながら
丹精を込めて実現させます。

これが **みんなで創るまち** のイメージです。

まちづくりを進めるための行動指針

まちづくりは、まちの習熟度に合わせた調査や計画を進めることによって『見える近い将来像』をみんがが共有し、実現をめざすプロセスです。

まちづくりは、今始まったものではなく、私たちの先輩が辿ってきた『私たちのまちを愛する気持』を今ここにいる私たちが受け止めて「昔の事柄を重ねたり、もう一度調べたり・考えなおしたり」して、住み良い環境を創っていこうとするものです。

まちづくりに専門家はいません。

理想を描きながらも、完璧を求めると、時間や費用が嵩むので、小さな試行を重ねながら、私たちの身丈に合ったものを模索していきます。

学ぶ・教えるから共感できる舞台づくりへ

いろんなイベント企画を目にしますが、ややもすると目的が見失われているケースに戸惑いはありませんか？　イベントをみんなで創っていくためには要項にしっかりと目的を定めること、その目的を関わるスタッフが共有してお客様に共感して頂ける舞台（プロセスやシナリオ）づくりがないとそのイベントは風化してしまいます。

小さな目標

地域の将来像として、大きな目標（夢）を持つことは大切ですが、目の前にある小さな目標をうまく設定できるかが、実現のカギを握ります。目標は、その日、その日を支配します。

私たちが目指すところは【様々な人たちが出会い、知恵を出し合い、生まれた目標に向かって、日進月歩を心がけることができる土壌づくり】にあります。

心の解放、ゆとりと創造」

人々の多くは仕事を持ち、趣味などをもちながら、まちづくりに関わっていただいています。これだけはして頂かないと・・という想いはありますが、同じ分量に分けあうようなワークシェア―は、現実にそぐわない面がでてきます。無理を通さず、それぞれの事情を解りあってゆとりをもって一緒に取り組める環境づくりを･･･ボチボチとまちを実感していくことからまちを創造するエネルギーのようなものが出てきそうな気がします。

負の連鎖

『今までどおり・・』いう説明を聞きますが、質問をしても、この前のやり方を誰かに説明させる。わかったようで、解りません。

今までの慣習や仕事のやり方に都合よくあぐらをかく役人や地域のリーダー・職場の上司のイメージを変えて欲しいです。みんなで話し合ってまちを創っていきましょう。

新しいものは、風化するが、新しい温もりは、いつまでも忘れない

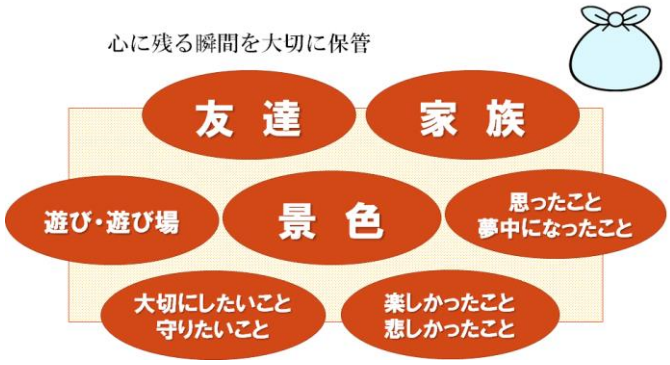
私にとっての変化は、人間同士の関わりのなかで湧き上がってくる気持ちにがきっかけとなっていたようです。それが人との会話や講演であったり、イベントであったり、書物であったり、このような情報で出会ったり･･･・「感動」と「感謝」を心の内に宿らせて、積み重なったものはいつまでも心の中に宿っています。

身の丈

経済的に持ちこたえられる程度という側面で考えてみましょう。

時代の潮流は、地域協働型社会に向かっています。これからのまちづくりにおいては、行政に頼るだけでなく私たちも汗を書いて『理想のまち』から『みんなで創るまち』へのギア・チェンジをしてみませんか？　いつもいっている『理想のまちづくり』をあきらめるものではありません。「身の丈」を知ることにより、出来るところを見つけることで、役割を担い、行政との信頼感を高めていくことによって、少しずつ理想に近づいていければと･･そんな気持ちです。

故郷（ふるさと）という成長の絆

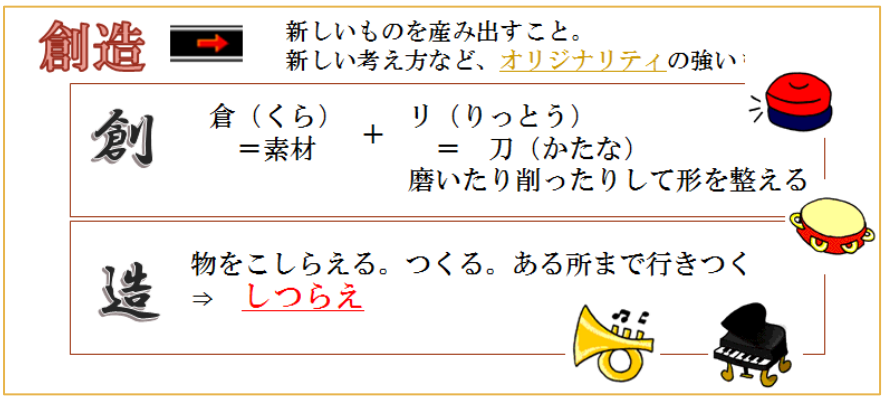


「人」と「人」のつながりをもつこと、それは「心のなかの想いを」意識化することに繋がります。

『輝いているとき」それは「誰かに・未来に何かを伝えたい」と思った瞬間かも知れません。

「ふりかえれば、いろんな人たちに“ありがとう”と言っている自分に宛てたお手紙」だったようにも思るかもしれません。

創造という無限の力



うまくできるかどうかを
案ずるより
『やってみよう』『考えてみよう』
という気持ちが
自分を大きく成長させてくれると思います。